

# どろんどろんと コミュニケーション



## 災害多発時代

Vol.115

台風18号が鳥羽を襲いまし

た。発生してから、僅か二、三日でやってきました。これまでとは違う異例の展開でした。なぜこんなことが起こるのか？それは海の海水温が高く、日本の近くで台風が発生するようになったからでしょう。この台風によって市内各地で被害が発生しました。さくらが丘の土砂崩れは最大のもので、河内町や奥谷ではかなりの出水でした。9月12日には市役所の有志の職員たちがボランティアで、被害を受けたお宅の後片付けをしました。若い人達だけに任せておけないと思って、私もシニア代表で参加しました。頭で考えるようには、体が動かなくなりましたが、それでも大変

喜んでもらいました。

一方、はるか遠くの南東海上で日本を窺っていた台風17号と、この台風18号がお互いに影響しあって、鬼怒川氾濫という大水害が起きました。多くの家々が流され、犠牲者も出ました。被害を受けた方は本当にお気の毒ですが、自然災害の場合、国や市町からの補償はあまり期待出来ません。個人の所有する裏山が崩れた時なども、原則として個人の負担で復旧すべしとなっていて、市は手が出せません。ボランティアを募集するくらいしか方法がないのです。それにしても、地球の気候変動による災害の多発化が顕著になってきました。そして台風も雨も竜巻もそれぞれに

強烈になってきたように思います。私達が日々エネルギーを消費し続けることが悪影響を及ぼしていることは、間違いありません。洗濯も掃除も冷暖房も全てエネルギーを消費しています。毎日毎日、膨大な数の車が走り回り、膨大な数の飛行機が成層圏を飛び回っていることのツケが回って来ているわけです。エンジンを発明した人は、その発明が地球上の酸素を減少させ、炭酸ガスを増加させるなどということは夢にも思わなかったでしょう。

更に、私達の活動と無関係な災害も活発になってきているようです。それは地震や火山の噴火です。戦後しばらくは割合平穏な時代が続いていたと思いますが、最近では、御嶽山、桜島、小笠原や口永良部島そして今回、阿蘇山でも噴火がありました。また、阪神淡路の震災以来、地震が頻発するようになりました。日本の地下が活動期に入ってきたのでしょうか。今後は、いかに省エネを進めるか、いかに災害に対して準備をするかが大切なことでしょう。子どもや孫の時代には良い方向に変わっていることを期待したいと思います。



Vol.141

### ありのままから

『子どもの幸福度も、お年寄りの幸福度も下がっています。笑顔は幸福度のチェック項目の一番目』

小・中学校で人権教育を進めてこられた大久保幸一さんが、『第六回豊かな就学前人権実践交流会』の講演で冒頭投げかけられた話題です。質問と参加者の話し合いの進めかたで展開します。

『キリンの角は何本、ゴリラのしっぽの形は、虎の耳の模様は？』ハツとさせられる質問でした。私たちは、特徴のある部分はよく見えています。が、一つ一つは実は見えないことが多いのです。子どもに質問されたら、きちんと答えられるでしょうか。曖昧にしてしまうこともあるのでは

ないでしょうか。事実は事実で見える。見ているようで見えない、決めつけや思いこみ、こそこそ話、うわさ話を信じて事実と違ったことを話していませんか。

『僕のお父さんは桃太郎というやつに殺されました。：鬼の子より』涙を流す子鬼のイラスト「めでたし めでたし？」の「？」に込められた意味が、私たちに立場や見方を変えることにより考えなければならぬ問題を提言します。

『奈良県のある小学校で子どもたちの人権感覚が急激に高まりました。どんな取り組み？』それは、ある一人の児童（仲間）の病死でした。亡くなった友に卒業までクラスの出来事を毎日伝えていく友達の営みが、命の尊さを全校児童に投げかけてくれました。

就学前（保育所・幼稚園）教育は、教科書がなく、目の前の子どもの姿から取り組み、環境・場の設定を進めることから始まります。人権教育も、実態に学ぶこと、実態を見つめることから始めなくてはなりません。人権を大切にすることから始め、みんなが幸せになる姿に取り組むことだと思えます。